

法学部国際関係法学科開設10周年記念に寄せて

神戸学院大学法学部国際関係法学科は、1994（平成6）年4月、国内4番目の学科として開設され、昨年4月、開設10周年を迎えました。

本学科は、国際的視野を持つ人材の育成を目的とし、国際社会の対応しうるスペシャリストの育成、国際交流の促進、および、生涯教育の促進を3本の柱としています。この間、2000名を超える卒業生を社会に送り出し、卒業生はそれぞれの立場において広く社会に貢献しております。また、1998（平成10）年4月には、大学院法学研究科国際関係法学専攻（修士課程）を開設し、修了生は国際機関等において活躍しております。

昨年度は、本学科開設10周年を記念して、6月29日に、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）のビルコ・コウルラ駐日代表をお迎えし、「21世紀における世界の難民問題と国連」と題する講演をして頂きました。また、11月9日に、映画監督チェン・カイコー氏をお迎えし、代表作「北京バイオリン」を上映後、「中国映画にみるアジア的価値と伝統」と題する講演および公開シンポジウムを行い、学生のみならず、市民の方も多く参加して頂きました。

21世紀を迎え、わが国は、身近な国際化（グローバル（glocal））を余儀なくされています。新たな10周年に向けて歩み始めた本学科は、今後、国際環境に対応しうる学科でありたいと考えております。

おわりに、本学科開設10周年を記念して、ここに研究成果を発表致します。これらの成果が国際社会に多少なりとも貢献することができれば、私どもとしては望外の幸せであります。

2005年4月

法学部長 岡田豊基